こんにちは

村田 けい子です

2016.1.29
No.37

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員　村田桂子　立科町塩沢1483　☎0267(56)2868

1/24～27「沖縄・平和の旅　沖縄の本当を学んでこよう」レポート

平和の礎（いしじ）糸満市摩文仁（まぶに）の丘、長野県のブース

3泊4日で沖縄への平和の旅に参加しました。佐久地域・小諸市からピースアクション佐久の呼びかけに応えて14名が参加。沖縄だから温かいだろうと分厚いジャンパーは置いていったのが的外れ、何と39年ぶりという寒さで、名護市ではみぞれが降ったとか。こちらでのいでたちが全く違和感がなく「寒い、寒い」の連発でした。

それでも那覇空港は胡蝶蘭がお出迎え、「さすが沖縄」の風情です。

【一日目】まずはレンタカーで**平和祈念公園**に。沖縄戦で亡くなった兵士や民間人、外国人の名前が県ごとにアイウエオ順で刻まれていました。

「多い時で600名も負傷者が運び込まれていたが、生き残った人は7人だけ。今、戻ってこられる幸せを感じてほしい。」南城市玉城糸数

コチョウランがお出迎え

その後南城市の**アブチラガマへ。**ガマと呼ばれる天然の洞窟に入り、戦時の暗さを体験しました。予定よりも30分も遅くなったにも関わらず、ガイドさんは「知るべき人達が、知るために来られた。今度は伝えてほしい」とこのガマについて熱い説明を受けた後，ヘルメット、懐中電灯を持ち中へ。

ガマの入り口は狭く、また大変急な勾配で、琉球石灰岩がごつごつと不規則に並び、よろけそうです。中に進むと広い空間があり、何と二階建てビルに相当する高さ、広がりがありました。このガマに最大600人の負傷兵が担ぎ込まれ、野戦病院として使われたとのこと。ひめゆり部隊が配属されたが、薬も食料もない中で、女生徒たちは水汲みや蛆取り、糞尿の始末などに追われたとのこと。電気も部隊の撤退とともになくなり、あとはろうそくの明かりだけが頼り。破傷風や脳障害になり、あるいは手足をもがれた兵士たちが、でこぼこした床に身を横たえていたこと。ガマの中はうめき声や糞尿、遺体の腐臭などに満ちていたと思われます。火で焼けつくそうと、米軍がガソリンの入ったドラム缶を投げ入れ黒く焼け焦げた天井や便所として利用された鉄なべ、かまどや井戸など当時のままに有りました。ポトン、ポトンと水の滴る音しか聞こえない真っ暗闇の中で、どんなにか恐ろしかったことか、どんな思いで死んでいったのか、と言葉を失いました。

【二日目】

識名園庭園

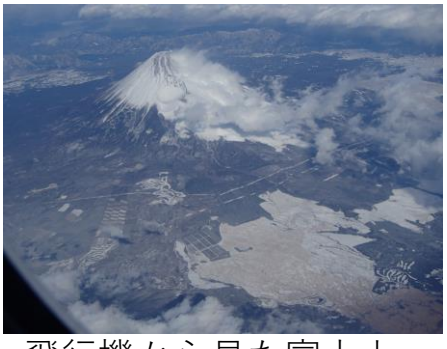
識名園は世界文化遺産に登録された回遊式庭園。琉球王朝の王家の保養所でもあり、中国からの冊封使（さっぷうし）や薩摩からの使者など迎賓館として利用されたという。池の中にある六角堂は中国式で、沖縄が中国とも仲良く交流していたことをうかがわせる美しい庭園でした。

琉球王国が独自の文化をもつ豊かな国であったことを感じました。

シダの林

バナナの花と実

今週のパチリ



飛行機から見た富士山

羽田から那覇空港までのフライトで、窓際の席に座れました。出発するときから雲が多く、とぎれとぎれの風景が続いて、『今どこら辺を飛んでいるのかな』と思っていたら、目の前に富士山！「富士の山ですよ、ご覧下さい！」と周りの方にも声を掛け、一目見てもらいました。日本一の名にふさわしい名峰です。

でもその裾野の禿げたところは、痛々しい。演習場でしょうか。世界遺産に登録されましたが、やはり米軍の演習場を無くさなくては。緑の裾野こそがふさわしいでしょう。

嘉数（かかず）高台公園は（かかず）激戦地で多くの慰霊碑がおかれていた。京都や島根などの慰霊碑とともに日本人として徴用された韓国の兵士の慰霊碑もあった。
トーチカ（小型要塞で銃撃をする陣地）も置かれ、

トーチカの残骸、3人がやっとの広さ

アメリカの砲弾のために厚さ1mの壁がボロボロになっていた。
どんなにか恐ろしかったことだろう。アメリカの物量は日本の何倍もあったのだから。ほとんど全滅したところだという。

嘉数高台から普天間基地を見る。オスプレイが有る。

沖縄国際大学
米軍のヘリが大学に墜落した時の惨事を物語る木々。いまだに葉が茂っていない。

「もう基地はつくらせない」と書かれたジャンパー

「道の駅嘉手納」で出会った人たち、神戸から宜野湾の市長選の支援に来られたとのこと、残念でした。お疲れ様でした。ここから嘉手納基地がよく見える高台がある。

【三日目】 キャンプシュワブゲート前行動に参加（辺野古のテント前）

わたしたちもブロックの前に座り込み、激励に「沖縄を返せ」を歌い続ける。リコーダーは私。両側を機動隊のバスがふさいでいる。ゲート前で立っているのは民間の警備会社の社員たち。住民の訴えを聞いて聞いている。

腕を組んで道路に横たわる支援者

前の戦争でガマに隠れていたときに火炎放射器で体を焼かれた島袋さん、盲目の母親と弟を連れて焔と鉄の雨の中を逃げ惑った。反対運動の先頭に立っている。「基地ができれば、あんたたちが殺されるんだよー」と機動隊の人やガードマンに語り掛けているという。86才になる。沖縄の闘いを全国に発信している。「体を大切に」とみんなで握手。

何と朝6時にホテルのロビーに集合し、座り込みに参加。6時半にはゲート前に多くの人々が。平日なので100人くらいでしょうか。ゲート前にブロックを積んで、工事車両の進入を少しでも遅らせようという戦術を始めたばかりとのこと。宜野湾市長選での与党候補の当選を受けて、休止していた工事が再開されたとのこと。

参加者で600個のブロックを積み上げる。その上に人が乗って、簡単にどかされない体制を作った。8時半になると工事車両の進入を遅らせる直接行動に出た。トラックの前に飛び出し、進行を遅らせる行動だ。道路に横たわり隣の人と腕を組む。「非暴力、抵抗」をモットーに文字通り体を張って工事の強行を少しでも遅らせようと頑張っているのです。

そうはいっても横たわった住民は東京から来た機動隊に、腕をほどかれ足と頭を持たれて排除されます。戻ろうとする人々を機動隊はガードして車両を通すのです。

朝食の為、引き上げる間にブロックはきれいさっぱりかたずけられていました。しかしすきを見てはブロックを積み上げようとしています。こうした戦いをカメラに収め続けている若い女性カメラマンもいました。長野県の方から20個のブロックが寄付されたとの報告。また東京都の方から1個200円のブロックを2,000円かけて郵送されたと紹介がある。私たち14名も佐久から来たと紹介されました。「1,000個のブロックが有れば、もっと時間はかかるし工事を遅らせられる。」「支援のみなさんが300人いれば、工事車両は止められる」とのこと。機動隊よりも多い支援者が集まれば「工事は止まる」体で感じた戦い方です。翁長県知事が「埋め立て許可の取り消し」をしたのに、政府は全く意に介さず強行する。「地方自治はどうなった、民主主義はどこにある」との叫びは沖縄の人々の心からの声です。

抗議する住民を締め出すためのフェンスに全国からの激励の旗がつけられている。このフェンスで潮の流れが変わって、浜がやせ砂が流失したとのこと。漁業権を売り渡して、反対住民を監視する仕事についている人も多いと聞いた。いつもお金で買収する戦術に住民は分断される。